



ナチスに学ぶ自民党麻生副総理

ナチスに学べ

七月三十一日、麻生太郎副首相は「ワイマール憲法はいつの間にか変わっていた。誰も気がつかない間に変わった。あの手口を学んだらどうか」と講演。

自民党の憲法改正案では基本的人権の不可侵を定めた九七条を全文削除。十二条は「個人の自由は公共の秩序に反しない限り」に変える。

誰も気がつかないうちに九条も変え「こっそり個人の自由も制限しよう」と云う訳だ。

平和については

麻生氏は「護憲と叫んで平和がくると思ったら大間違い」と叫ぶ。TVタックルで自民の片山さつきは、中国軍艦が自衛艦にレーダー照射したことについて

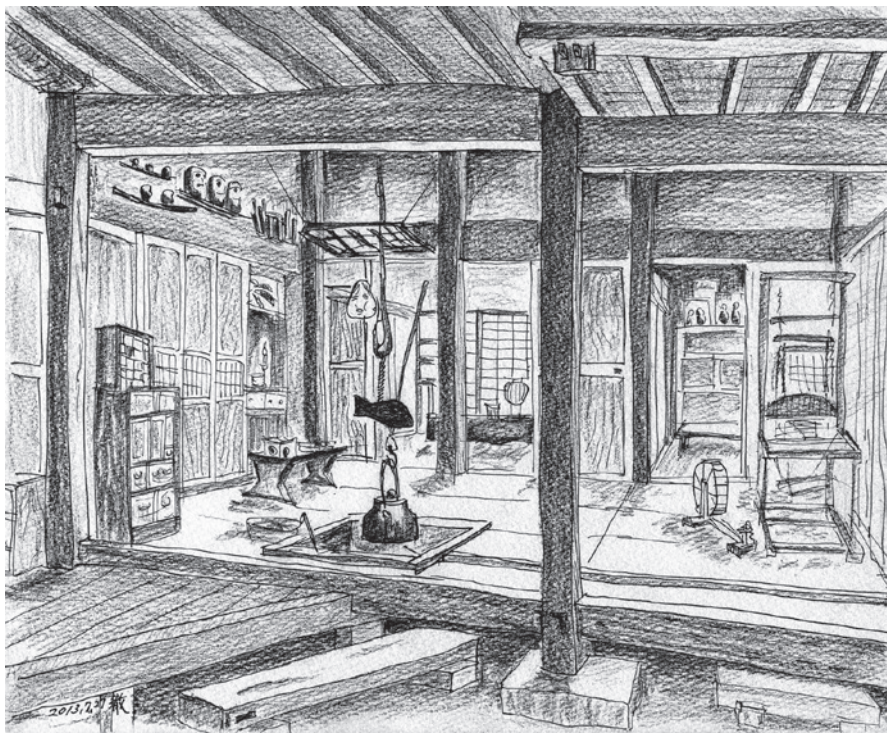
「九条がなければ撃つていた」と云う。憲法を変えてドンパチやれと云う主張だ。沖繩では米軍のオスプレイが我が物顔に飛び、まるで戦時下。平和を取り戻すには憲法九条を厳格に守り、安保条約を止め、米軍基地を無くす事だ。

靖国では

東条英機らは対米開戦はすべきでない。だから「海軍から開戦するなと云ってくれ」と云いつつ、開戦。やるべきでない戦争で多数の諸国民の命が失われた。麻生氏は、その東条らを祀る靖国神社に「敬意と感謝の念を払わない方がおかしい」と云う。敬意を払わせた先には戦争が見える。皆さんはどう思われますか？

うしかたやど
牛方宿

長野県おたり小谷村



日本海岸の糸魚川市から松本へ向かうとき、今は、姫川沿いの道を通る。切り立った川岸に沢山トンネルがある。

しかし、明治以前は険しい山の道しか無かった。一俵四七キロの塩俵を二つ載せた牛、牛の歩みは遅いが、重荷に耐え、険しい山道にも耐えた。これが「塩の道」だ。

その道中、牛方と牛が一緒に泊まったのが「牛方宿」。間口十間、奥行き六間で六十坪の大きな建物だ。その半分は牛を休ませる為の土間。牛の見える中二階で牛方は休む。

囲炉裏の見える座敷には商人などが泊まった。

姫川沿いの道が出来てから、塩の道を旅する人はなくなった。座敷には糸車や機織りが置かれた。